
ラストボール

曇り空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラストボール

【Nコード】

N5085A

【作者名】

曇り空

【あらすじ】

僕は小学六年生、明日の紅白戦はレギュラーを決める大事な試合なんだ。でも僕は迷ってる。

『勝負は勝負なんだ、手加減するなよ』なんて大輝は言うんだ。僕にだって分からない訳じゃない。僕も自分なりに今日まで練習してきた。毎日投げ込みは欠かさずやった。

そもそも、僕がこんなに悩んでるのは監督のせいだ。

「有也と聡は二人ともいいピッチャーだからな、明日の紅白戦でどちらをレギュラーにするか決める」

練習が終わった後、監督は僕達二人を呼び出して言った。僕も聡もコクリと頷いて承知した。

その時は絶対負けるもんかって、おもってただけだね。僕達、つまり僕と大輝、それから聡は小学校に入学した時からこのチームに入っていた。

そして、僕達は今年で六年、つまり今年は僕達の年というわけだ。

僕達は昔からチームにいたこともあって、何度か上級生の試合に出してもらったこともあった。

先輩のピッチャーが疲れてダウンすれば、僕か聡の出番だ。大抵どちらが選ばれるかは半々だったから、僕は今まで聡をライバルなんて思ったことはなかった。

でも今回は違う、どちらか一人なんだ。

さっきも言ったけど、僕だって最初は負けるもんかっておもってたんだ、でもね、段々、聡もレギュラーになるために六年間頑張ってきたんだなあ、なんて考えちゃって自分がどうするのがいいのかわからなくなってきた。

それで大輝に相談してみたりもした、なんて言われたかは最初に言ったよね。

それで、今、紅白戦、1対0 僕達が勝ってる。

でも、僕は最後の最後でヘマをやった。

立て続けに打たれた。五番、六番、七番、が連続でヒット、ツアウト満塁、一発逆転のピンチ。

でもね、次のバッター、つまり八番の高村は下手くそなの、まずバットの使い方が分かってないくらい。

ごめん、ちよつと大袈裟。

でも本当にそんな感じ、だから打ち取って当たり前の相手、でも僕はちよつと緊張してボールを連発した。ノーストライク スリーボール キャッチャーの大輝が慌てて駆け寄ってきて『いつも通りに行こうぜ』って言うてくれた。

それで、緊張がぼぐれて、連続ストライク、ツーストライク スリーボール、 後一球、ストライクゾーンに入れば大丈夫だ。でもこんな時、ネクストバッターズサークルで素振りしている聡の顔が目に入る。

僕の頭の中を『迷い』が駆け巡った。そして投げた。

大輝のキャッチャーミットがバシツツと鳴った。

（後書き）

今回は心の中の葛藤を描こうと思い極力、背景を描かないことにしました。ご感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5085a/>

ラストボール

2010年10月19日15時00分発行